

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3171500519		
法人名	医療法人社団キマチ外科・整形外科医院		
事業所名	チューリップホーム(グループホームひえづ) B棟・ひまわり		
所在地	鳥取県西伯郡日吉津村今吉204-1		
自己評価作成日	平成23年2月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1 YNT第10ビル111		
訪問調査日	平成23年3月4日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ご利用者への支援に携わるにあたり、根本となる職員配置数を多くし、あわただしさ無く、個々へのケアが行えるよう目指している。日常生活においては、ご利用者の生活リズムを尊重しつつ、各種活動、役割へのご案内により生活が活性化されたものとなるよう、また外出支援にも力を入れ、地域行事への参加を含めたホーム外活動の支援に努めている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

潮風と松緑、広大な自然に恵まれたチューリップホームは、開設7年目を迎える日吉津村唯一のグループホームである。ゆとりある職員配置により、利用者の希望に応じた柔軟な外出支援を始め、ゆったりとした日常の支援を実施しており、利用者の表情も穏やかである。管理者と職員は、利用者の思いを汲み取ることを大切にしており、よりその人らしく暮らせるよう様々な検討を試みている。法人母体が医療機関であることも利用者や家族の安心に繋がっている。地域においても、併設の施設と共に行事等を通して関係を築いている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	外部研修で学んだ“基本理念とは何か”を今一度職員ミーティングにて皆で振り返り、当ホームが掲げる理念の意を掘り下げ検討し、日々の実践につなげている。	ミーティングや会議等、様々な場面で話し合い理念の言葉を吟味し、職員各自で掘り下げ、利用者に対してゆとりのある安心した生活ができるように努めている。地域密着型サービスとして、日吉津の「村を大切に」という思いも盛り込まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	毎年、系列施設と合同祭(秋)を開催し地域の方をお招きする他、地区夏祭りや芋掘り・マラソン応援・ふれあいフェスタ等の地域行事を通じて交流機会を大切にしている。	隣接の施設と合同の秋祭りの開催、公民館祭に利用者の作品の出展、地区の夏祭りへの参加等、地域との触れ合いの機会作りが認められる。子供会との芋掘りや、保育園児との交流も毎年行われている。地域住民から野菜の差し入れなども受けている。	ホーム便りが発行されたが、今後家族宛だけでなく、公民館、商店等に配布することでホームに対する理解をより地域に深めていくことや、地域に開かれたホームを目指して介護教室を開催する等、地域の資源となるような取り組みが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	啓発活動には至らないが、地域行事へ参加し、当ホームを身近に感じていただけるよう、又来所者へ相談援助を行ない助言等行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度偶数月に開催し、自治会役員の方・村役場の方・ご利用者とご家族様を交え、近況報告ならびに意見交換を行ない、サービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回開催され、自治会正・副会長、行政職員、家族・利用者本人の参加があり、活動報告、ケース対応、安全管理面等について率直な意見交換がなされている。よりよい運営の在り方へ向けての話し合いが行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から諸用にて市町村担当者と連絡を取っており、最近では支援困難事例に際して各担当者さんより協力を得て解決へ動き出すことができた。引き続き連携を図っていきたい。	困難事例について相談する等、ホームだけで抱え込むこと無く、役場の協力を得てサービスに反映している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体会議において管理者より身体拘束については周知徹底を図ってきたが、今後は現場スタッフ内で「身体拘束・虐待防止検討委員会」を立ち上げ活動を展開している。	「身体拘束・虐待防止検討委員会」を立ち上げられた。今後、委員を職員の持ち回りとし、周知・理解に努めていられる。ホームの玄関の施錠は無く、職員が気配りをして利用者の様子を把握している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「身体拘束をしないケア」同様に委員会活動を通じて、職員間で虐待防止の徹底につき啓発と共有を図っている。管理者・リーダーが主体となり日頃より現場においても注意を払い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご利用者おひとりが(ご家族の申請より)成年後見制度を利用されることとなり、ご家族ならび関係者と情報交換する中で制度への理解を深めている。他ご利用者を含め支援できるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書ならび重要事項説明書について、不明な点や疑問に思われる点などないか確認を取りながら、ご理解頂けるよう説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常時ご意見をお寄せ頂ける旨を、口頭ならびに玄関への書面掲示等にて周知しているほか、ご家族様へ匿名でのアンケートを依頼し、承ったご意見について反映させている。	面会時に家族と話をすることを心掛けたり、昨年12月に初めてアンケート調査を実施している。内容を検討し、要望には速やかに対応し、運営に反映させる取り組みが認められる。	家族会や世話役を決めて家族間の交流を深められ、意見や要望を聞くことも期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は随時職員からの意見提案を受け付けているが、主に毎朝のミーティングやユニット会議にて多くの意見が寄せられており、十分検討のうえ反映できるようにしている。	ミーティングや個別の機会に、勤務体制に関すること、利用者への対応に関すること等、職員より意見を聞き、検討し実施につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各人の努力や実績を考慮し、待遇面での反映に努めているほか、家庭状況などに配慮し可能な範囲での勤務調整等を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修機会の案内書類等は職員へ周知し、なるべく希望に沿う他、職員各人の力量に応じて外部研修を勧め知識技術向上を図っている。内部では委員会活動を通じた勉強会、救急講習受講など行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム協会主催における相互研修がネットワーク構築に役立っている。自施設を見直す、気づきを得る機会となっており、今後もサービス向上のためにも交流を図っていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居頂く前に、ご挨拶と初回アセスメントを兼ねて訪問させて頂き、ご本人のご意向等確認しながら関係構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム見学・概要説明時・入居申し込み時・訪問調査時など、その都度ご家族と意見交換を行ない、関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族とお会いして支援方法を検討する中で、他サービスによる支援の方が効果的と考えられる際には助言等行ない、実際他サービスをご利用になられた方もおられる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の方と対等の立場で接することを心掛けている。調理の盛り付けや洗い物・洗濯物たたみなどの家事を一緒に行なう動きのみならず、気持ちの面などでも互いに支えあう関係であるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の状況を面会時他お手紙や電話にて報告するなかで、支援上必要なご家族の協力も頂けるようご説明のうえ依頼し、共に支えていく関係が保たれるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	具体的事例としてご自宅やお墓参りへの外出支援、大好きでおられたお店の品を取り寄せる、友人へ手紙を書くことなど支援している。各々の想いを大切に受け止め支援していきたい。	自宅での片付け物、月1回の墓参り、手紙や電話の支援、お酒等の嗜好品など、アセスメントや日々の観察により、利用者の馴染みの人や場を把握しており、本人にとって大切なものとして継続した支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係性に配慮し、席置の検討ならび職員の仲介的支援により互いの関係が保たれるよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院が見込まれ契約終了に至るケースが多いが、ご本人のもとへ面会に行くことや、ご家族より連絡を頂戴することもあり、関係が切れないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人が言葉にされない部分の思いや希望にも目を向けられるよう日々の関わりを大切にしている。意思表示が難しい方へも同様日頃の関わりからす推測し検討を行っている。	本人本位の暮らし方を支援している。職員が概ねゆったりとした対応を心掛けており、その中で丁寧な声かけをする、細やかな観察をすることにより、本人の意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、ご本人やご家族・サービス利用先があればその事業所へ差し支えない範囲で尋ねる他、入居後も普段の関わりやカンファレンス等を通じて生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方については日課計画表にて、心身状態および有する能力等現状についてはアセスメントシートを用いて把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人とご家族のご意見およびご意向をふまえて計画作成担当者ご利用者の担当職員が協同でサービス計画書を立案し、カンファレンスにおいて意見交換を行なったのち発行している。	本人・家族の意見や要望を聞き取り、介護計画を作成している。必要に応じて医療の面からの意見も取り入れている。日々の記録から全体のまとめも記入され、毎月モニタリングを実施し、目標に対して評価を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子・過ごし方とは別に、介護計画に基づく支援とその結果等を個別記録に記載し、情報共有と計画見直しに活かしている。書式・記載方法ともに今後も見直し充実させていきたい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当ホームは入所サービスと併せ通所サービスも行っている他、系列の事業所を含めた中で、ご本人の状態に応じた支援を提供できるよう連携している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や地域行事への外出等を通じ地域との結びつきを深めながら地域資源を見出し、ご利用者様へのサービス展開へ活かせるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の希望を伺い、希望のある方はできるだけそのかかりつけ医に診察を受けてもらえるようにしている。定期受診は職員と一緒に同行し、また往診でも協力を得ている。	法人母体が医院であることが利用者・家族の安心につながっている。ホームの提携医院以外にも、利用者それぞれの長年のかかりつけ医との関係を尊重し、職員が受診の支援をしている。また、ホーム提携医や協力病院からの往診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームの看護師ならび母体の医院看護職者と連携し、情報共有と相談をしながら健康面のみならず協働して、ご利用者への支援を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には、数日に一回見舞いなどを行い、その際、本人の治療状況を確認し、病院関係者と情報交換のもと、退院におけるホームでの支援態勢を整え早期退院を目指している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	認知症ならび病状が進行されるご利用者様も実際おられます中で、まず、日々の支援のみならず先を見据えた方針を、ご本人・ご家族・医師・看護師、ケアマネージャー等と職員と連携を図り相談しながらチーム支援形成に努めている。	看取りの例は未だ無いが、法人として終末期の支援をする方針は持っており、入所時に家族に伝えている。症状が重くなった利用者のケアを通じて、ホームの看護師より職員が学ぶよう心掛けている。	重度化の場合の対応を、職員間で新人職員も含めて話し合い、共通の認識を確認することが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に法人内で救急訓練を行っている。また緊急時対応についてはマニュアル他、ミーティングの場において管理者より周知徹底を図っており、今後も実践力向上に努めていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行い、対応を身につけるよう努めているほか、運営推進会議等において災害時対応について検討させて頂き情報収集と体制構築を進めている段階である。	消防署の立会いのもと、利用者も参加して避難訓練を実施されている。3月末にはスプリンクラーを設置し、またホーム真近の消火栓の設置について自治会より要望を出し、行政とも協力体制を進めている。	今後は、地域の自警団の団長や近隣の住民の協力を求められ、連絡網に考慮されることが期待される。災害時の備蓄に関してもリストの整備が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重とプライバシー保護を心がけ対応している。管理者より職員へ同様につき周知し意識化されるよう促している。	利用者の尊厳を大切にしたい対応ができるよう、日々の申し送りや会議などで確認している。実際の声かけ等について、利用者の誇りを傷つけるような対応はみられなかった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ティータイム時の飲物選択、ご利用者ごとに選択検討した献立の反映、個別に話しやすい空間での会話等により働きかけを実施。自己選択につながる言葉遣いの工夫と意思表出が難しい方への支援を重点化していきたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはおおまかにある中で、中でもどのようにお過ごし頂くのか、ご本人様へも尋ねながらなるべく希望に副えるよう調整し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗顔・髭剃りの介助を始めとし、散髪を得意とする職員もおり、ご家族同意のもと無償での散髪も行なっている。着衣の選択をはじめ身だしなみへ気を配っている。ご家族よりおしゃれ着を持参頂ける方もおられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に際しご利用者様にも調理の下ごしらえ等に協力頂き、食事前には嚥下体操を実施。献立を個別に検討し提供する機会あり。可能な方には下膳等も協力を得ている。雰囲気作りは今後も課題である。	利用者の希望を入れたお好みメニューが月2回、近く公営の旅館に定食を食べに行くこともあり、おやつを買いに行くことも支援されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の状態に応じて食事形態を変更したり、水分量に関して不足されないよう飲み物の種類を変えながら提供している。食事と水分摂取量の確認表も用いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ご案内にて口腔ケアを実施。口腔状態の観察を行ない変化があれば歯科受診を勧めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	大半の方が尿意を示されるが動作には支援を要する状態であるので、ご本人からの意思表示のみならず気兼ねなく排泄できるようにさりげなく言葉かけ案内等に務めている。	排泄の自立に向けて、職員の支援による成功事例もあり、評価される。利用者をよく観察し、気持ち良く過ごせるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や繊維質の物を多く摂取して頂けるように努めている他、冬期においても運動とリハビリを兼ねて屋内歩行を促し、付添い支援を行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2~3回入浴して頂けるよう案内を行なっている。入浴を拒まれた際は他ご利用者への案内等により調整をした上で、翌日に再び入浴案内を行なっている。	利用者の気持ちや気分を尊重した上で、工夫しながら入浴への働きかけを行っている。順番等もスムーズにいくよう調整をしている。安心・安全な入浴支援のための職員配置を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自分のペースをお持ちになられる方が多く、なるべくそのペースに沿うよう支援を行なっている。車椅子が欠かせない方へも適宜案内により休息時間を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の変更があれば申し送り時に管理者や看護師より薬に関する説明がある他、服薬状況を観て変化があれば看護師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に行なって頂ける範囲で役割をお願いしている他、季節ごとの行事により気分転換して頂けるよう支援している。レクリエーション時皆様の笑みを多く見受けられるも、特定の方が内容決定される傾向にあり今後の検討点である。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	通院をはじめ日常にご自宅・知人宅・買い物・ご家族のもとなどへ外出支援を実施している。日曜日には普段外出頻度が少ない方をドライブにお誘いし気分転換を支援している。	四季折々の自然を楽しめるドライブを積極的に実施している。近隣の大手スーパーに出掛けショッピングを楽しんでいる。利用者の希望にできるだけ添えるよう努めている。利用者によって外出頻度に偏りがでないように配慮して支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお小遣い程度の額を管理されておられる方もおられれば、管理が困難な方へは事務所で管理代行し、外出時や買い物時に使って頂けるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも掛けられるようホールに設置されており、ご家族との連絡を希望される方が実際数名おられ、その際はダイヤル操作など支援している。手紙も同様サポートを行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールに季節の花を飾ることや、折り紙を用いた装飾に力を入れている。温度・湿度、明るさにも気をつけ調節を行なっている。	共有空間は十分な広さがあり、食後はソファでくつろいだり、畳の空間でテレビを楽しんだり、思いおもいにゆったりと過ごしている。床暖房で心地よく、またホーム内で温度差ができないよう空調に配慮している。金魚やザリガニの水槽が置かれていたり、手作品が飾られていたり、温かみのある空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者の入退居や状態変化に際し、テーブルや椅子の配置を検討して、ご利用者同士一緒に話をしたり出来るよう、又トラブルも回避されるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みある物品を持参して頂けるようご家族へもお話している他、家具の配置などに関してもご本人の状態に応じて、使い易いよう配慮を行なっている。まだまだ至らないところもあり空間作りも今後の課題ととらえている。	ベッドは備え付けであるが、その他の整理ダンスやテレビ、仏壇など利用者それぞれが愛着のあるもの、好みのものを持ち込んでいる。折にふれて検討し、利用者の心を癒すような家族の写真や装飾品を加えてゆく取り組みをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内に洗面所があり、トイレは居室を出るとすぐに分かる場所へ設置されている。入浴場にはのれんが掛けられているほか、ホールから玄関が見えるので出入りもし易くなっている。		